

2020年
教室だより
6月号



公文式
本市場教室・横割教室
ゆきこくもん 検索
<http://www.yukiko-kumon.com>

公文式本市場教室 火3時～7時 木2時30分～6時30分
Tel.61-4936(上平方)
横割教室 月・水 3時～7時 Tel.090-2260-0671
Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com
携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp
指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

コロナ禍で自粛生活を強いられてはや2カ月になりました。日差しも日増しに強くなり、疲れも少したまってきて、この時期には「もしかしたらスランプ?」と感じるようなこともあるかもしれませんね。何かに取り組むとき、成長を感じる時期とスランプを感じる時期は、年齢や経験などによって長短は変わってくるようですが、誰にでも交互にやってくるようです。ご家庭で「いつもと違うかな……?」と感じるようなことがありましたら、早めに教室までお知らせください。

さて、6月よりくもん教室で学習できることになりました。依然としてコロナ禍は続きそうですが、規則正しい生活をしっかりして感染しないさせないよう、決められたことをしっかり守り、乗り切っていくしかありません。

どうか皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“あれもこれもと欲ばらないのがコツ”

確実に学力をつけるには、学校で習うことのあれもこれも身につかせようと欲を出してはいけません。毎日1教科30分ぐらいの無理のない学習で、それぞれの教科の「高校卒業までに必要な最も重要な根幹の部分」のみにしぼって学習を進めるべきです。

そして、その根幹の部分とは、数学ならたし算・ひき算・かけ算・わり算から分数、方程式、因数分解、関数、微分・積分にいたる計算力であり、国語・英語なら短時間で長文の意味を確実に理解できる高度な読解力です。この根幹となる学力が十分に身につけば、その学力を突破口として、残りの部分は参考書などを使って自習することができるので、容易に習得できます。

ですから長い時間をかけてあれもこれもと学習させる無駄を省くために制作されたのが公文式教材です。

- ① はきものはきちんとそろえよう!
- ② あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!
- ③ もちものには なまえ をかきましょう!
- ④ でんわをかりたら かならず でんわ代10えんいれてください!

June 6 2020						
Sun日	Mon月	Tue火	Wed水	Thu木	Fri金	Sat土
	△	2	△	4	5	6
7	△	9	△	11	12	13
14	△	16	△	18	19	20
21	△	23	△	25	26	27
28	△	30				

□本市場教室学習日
△横割教室学習日

本市場教室日□
横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

6月分の会費引き落としは5月28日(木)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

コロナウィルスが蔓延（まんえん）しています。

教室へ来る前に家で体温を測りましょう！

体温が37.5℃以下なら大丈夫です。体温がそれ以上の人は公文をお休みして在宅学習をお願いします。

教室へ入るときは、必ず「マスク」をしてください。ない人は申し出ていただければマスクを差し上げます。

備え付けのアルコールで手洗い消毒してください。

算数ができない子にどう対応するか

最近親御さん方で、よく受ける相談や質問が「うちの子は算数ができない」です。

生活力もあって国語もできるのに、算数となるとまるでダメな子がいた。足し算や引き算も2ケタになると途端にできなくなる。その子のお母さんはいい人なのだが、ついイライラして「どうしてできないの!!」と子どもを怒鳴ってしまう。1年生で8+7ができない子がいた。マンツーマンで、ていねいに教えると理解できる。7を2と5に分けて、8と2を足して10。残りは5で、答は15と分かるのだが、「じゃあ、一人でやってごらん」と言うのでできない。人間には算数や抽象的思考力、言語能力、空間把握力などいろいろな能力があって、それぞれ発達のスピードが違う。言語能力が発達していても算数能力が遅れている子もいる。逆に算数ができても、絵をうまく描けない子もいる。親としては我が子の能力が友だちと比べて劣っていると不安になるだろうが、発達の仕方は子どもによって違うということをもっと知ってほしいですね。まだ数学的理解力が目覚めていないだけかもしれませんから。

数学の意味が分からずお手上げの中高時代

ある先生の話です。実はわたし自身も数学が苦手だったと、小学校の算数はある程度できたが、中学に入って、「マイナス×マイナス＝プラス」になる意味が全く分からず、数学ができなくなった。なぜ、「 $-2 \times -3 = 6$ 」なのか、イメージできなかったのです。マイナスとマイナスを掛け合わせればプラスになるものだと理屈抜きで覚えてしまえばいいのですが、わたしは意味が分からないと次に進めない性格なので、そこで立ち止まってしまったと。また、ルート（平方根）も同様に意味が分からなかった。いくら意味が分からなくても授業はどんどん進み、周りにはどんどん問題を解いているが、わたしには何が何だか全く分からない。結局、中学3年間はまるで数学ができなかった。運悪く、中2～3の担任が数学の先生で、呼び出されて「この数学のテストの平均点は80点なのに、お前は20点だ。何をやるとるか」と言われた。英語だけはよくできてクラスのトップだったし、国語も普通程度だったのに、数学だけはまるっきりできないものだから、担任は許せない。「やればできるのに、数学をバカにしているのだろう」と思われていた。しかし、分からないものは分からないのだから、いくらしかられてもどうしようもなかった。その状態がずっと続いて高校の数学もお手上げ状態で、大学は数学と無縁な私立大学を選んだとのことでした。

数学的な器が自然に育つこともある

もちろん、小学校時代に算数ができないなら放っておけばいいと言っているわけではありません。できない部分をていねいに優しく教えてやったり、繰り返し練習させたりすることは大切です。ただし、親御さんは注意してください。子どもさんに接するときには、しからず、怒鳴らず、穏やかに教えることです。

できないものはできないのだから、いくら感情的に怒ってもできるようにはなりません。まだ数学的な器が育っていないこともあり得るので、長い目で見てあげる必要があります。それに、その子がもし数学を本当に必要としたときはきっとできるようになります。中学受験を控えた子どもの親は、特に算数の点に神経質になりがちですが、本人にもどうしようもない部分があるのです。大人である親にも、どうしてもできないことはあるはずでしょう。「やればできる」と口で言うのは簡単ですが、そう言っている親自身がなんでもできるのでしょうか？ そんなことはないでしょう。人は誰でも、できないことはあるのです。どうしてもできないときは、目をつぶってやることも必要だと思います。保護者会で、子どもの中学受験に神経をすり減らしているらしい母親に質問されました。話しぶりから、子どもの偏差値が上がらなくてかなり焦っている様子でした。話しながら感情が高ぶってしまう様子から、普通の精神状態ではないと察せられました。「どう言えば、本人のやる気が出るのでしょうか？ 算数が本当にできないんです。どうすれば、算数ができるようになるのでしょうか？ もう、このままだと……」と、今にも泣き出しそうだったそうです。その人の頭の中は、すべてそのことでいっぱいなのでしょう。それがすべて子どもにぶつけられているのではないかと、非常に心配になりましたね。整理できない、朝早く起きられないなど、生活面もそうですが、勉強においてもどうしてもできない部分はあえて目をつぶることが必要だと思います。それは親としての大切な資質だと思います。子どもを許せず、しかり続けたり、言っただけでいけないうようなひどい言葉で子どもを傷つけたりすることはしてはいけません。親子関係を壊してまで算数や数学の点を上げる必要はないです。

これは、公文の先生に任せましょう。